



小坂井 実 議員

小島町地内の木曾川堤防は 震災時に大丈夫なのか

問

市地域防災計画で、市を含む濃尾平野の南西部で液状化の危険度が極めて高いと示されている。

地震災害が起これば市は埋立地、海抜ゼロメートル地帯と最悪の立地条件であるように思う。小島町地内の木曾川堤防は震災時、本当に大丈夫なのか。

木曾岬町は見上げるような堤防ができています。どうしてあそこで止まってしまっているのか。今後の対策や方針を聞く。

高潮堤整備の早期建設を国に依頼したい

答 市長

(国の) 木曾川河川整備計

画は、五明地区の堤防拡幅、

JR関西線より下流の高潮堤【注1】の整備、そしてJR関西線から愛西市まで矢板工法や高水敷【注2】を整備する漏水対策である。



▶木曾川左岸の高水敷整備(小島町地内)

20年度は(上流から)JR鉄橋までの漏水対策の予算措置がされている。

(前述の) 高潮堤整備が遅

れているので、早期建設を(国に)依頼していきたい。

市民の安心・安全に対し、これからも防災を含めて整備計画を進めていきたい。

【注1】台風等による高潮被害を防ぐ堤防。

【注2】水面より一段高い敷地。河川敷とも言う。洪水時は安全に水を流す敷地となる。

日光川の堤防対策を聞く

問

日光川下流の水門改修で、県の調査費が20年度に認められたと聞いた。

日光川の堤防対策はどのようなになっているか。

約20kmの区間を県が順次整備している

答 市長

日光水開門(飛鳥村)の改修工事は21年度から着手される。

日光川の堤防は河川管理

道路として非常に大きな効果がある。

稲沢市から飛鳥村までの約20kmの区間を(県が)順次整備している。国道1号の日光大橋(蟹江町)の架け替え(交差道路)が予算化されると聞いている。

役所はグループ制導入で何が変わったか

問

4月より、市役所はグループ制を実施しているが、導入前後で何が変わったのか。

組織のフラット化が進んだ

答 総務課長

従来の係制をグループ制に変更し、意思決定過程が1、2過程省かれ、迅速化が図られた。

担当者と部課長との距離が縮まり、組織のフラット化が進んだ。